

ボローニャ大学協定校留学月例報告(7 月分)

文化政策学部 国際文化学科 4 年 恒枝碧

Buongiorno! 国際文化学科 4 年の恒枝碧です。7 月のボローニャは 33 度以上の日が続き、部屋にエアコンがないので日中はとても暑苦しい日々を過ごしました。ですが、夜は風が吹くと涼しく感じるのでそこはありがたかったです。7 月はボローニャ生活最後の 1 か月ということで友人たちとの別れがつづき悲しい気持ちの反面、友人の実家を訪れたり、一緒に旅行をしたりとヨーロッパの夏を存分に満喫しました。



【サルデーニャ島】

友人がサルデーニャ島出身ということで、彼の帰省に合わせて私も一緒にサルデーニャの実家に 1 週間お邪魔させていただきました。サルデーニャの暮らしは一言でいうと完璧でした。朝早く起きて軽く朝ごはんを食べ、海へ行き昼まで海で過ごしてお昼ご飯に家に帰り、午後は家でゆっくりしてから夜は外のテラスでみんなでごはんを食べたり、友人たちと遊びに行ったりと穏やかで健康な日々でした。2 日に 1 回はとんでもなくきれいな海で泳ぎ、友人の誕生日も兼ねて一度海で野宿をしました。気候は乾燥していて、昼間は暑いですが夜になると外で気持ちよく夜風にあたりながら過ごせます。サルデーニャ島は世界五大長寿の島と言われるほど 100 歳以上の人口が多く、その理由がわかった気がします。サルデーニャの人は基本的にサルデーニャの物を食べます。というのも、スーパーに行くとサルデーニャ産のチーズや牛乳、肉類、パスタなど、サルデーニャでしか手に入らない食品が多く並んでいます。そして地元民がそれを好んで食べている傾向にあります。



ます。イタリアは日本に比べて物流が発達していません。日常的にボローニャでサルデーニャのチーズやサラミを食べようと思っても手に入らないのです。地元の物を食品添加物が少ない形で毎日食べていることが長寿のひとつの要因であるのでしょうか。友人と素敵な時間を過ごし、彼の家族にもまたおいでと言ってもらえたことは一生忘れない思い出であり、また必ず訪れたいです。

【Villa Rosa とウンブリア州】

7 月の後半にトルコ人フラットメイトと一緒に彼のイタリア人の友人の住んでいる街とその周辺に遊びに行きました。彼の友人がイタリア中部の東側の海岸 Villa Rosa というところでバカンスをしていたのでそこに合流しました。アドリア海はサルデーニャ島周辺に比べて比較的暖かく、いつま

でも入っていられます。サルデーニャと同様、ここも遠浅なので並が少なく安全です。昼はビーチでボンゴレビアンコのパゲッティを食べ、夕方はカードゲームをしていました。ビーチから帰ったあとはレストランでアロスティチーニという羊肉の串焼きを食べに行きました。私を含め 4 人で行き、45 本のアロスティチーニをみんなで食べました。

ウンブリア州はイタリア中部にある山々に囲まれた州で、低めな山や丘の頂上に街がいくつも点在しており、とてもおもしろい風景です。今回は州都のペルージャをはじめ、アッシジ、スポレート、ノルチャを訪れました。どの街も山の斜面や頂上に街が建設されているため基本的に坂道が多く、中世からの街並がそのまま残っているため基本的に石造りの街並が圧巻です。アッシジは世界遺産にも登録されており、キリスト教フランチェスコ教会の聖フランチェスコの生まれた地であり、お墓もありました。どの街も歴史はローマ帝国時代にまで遡り、世界史上のハンニバルが訪れたり、1000 年以上前の橋がまだ残っていたりと、歴史の深さを体感しました。気候も暑すぎず、夜は肌寒いほどでした。ウンブリア州を移動するには車がなかったほうが圧倒的に便利なので、いろいろな街に連れて行ってくれた友人には感謝していますし、イタリア生活最後に大都市ではない、小さな歴史のある街をいくつも訪れられてよかったです。



イタリア生活が終わりを迎えました。この 1 年、本当にいろいろなことがあり、悔しいことや心悩ますこともたくさんありましたがそれ以上に初めての体験や素晴らしい出会い、嬉しい体験、わくわくする体験、心満たされる出来事などここで過ごした人たちとの思い出がいかに尊いものか身にしみて感じます。勉強面ももちろんですが、20 代前半にこのような素晴らしい日々を過ごせたことに満足でしかありません。そして、これから先、またヨーロッパに戻ってきて生活するために頑張ります。またイタリアの友人たちに再会するためにここでの日々で学んだことを心に刻み、思い出を胸に一步一步進んでいきます。

今まで読んでいただいた方、ありがとうございました。

